

ニカラグアの国民詩人、ルベン・ダリオの詩と翻訳

わたなべなおひと
渡邊尚人

在マイアミ日本国総領事館首席領事



筆者が日本語に翻訳したルベン・ダリオの代表作『青…』。ダリオは3歳で読み書きをし、少年時代には『ドン・キホーテ』『聖書』『千一夜物語』を読み、13歳で少年詩人として中米に知られた。出国後、新聞の論説委員や特派員、新大陸発見400周年代表メンバーやパリ駐在領事、スペイン駐在公使など、外交官としても活躍した

70年にわたる友好関係

昨年2005年は、日本とニカラグア共和国の外交関係樹立70周年にあたり、両国首脳のメッセージ交換、ニカラグア国内での4種類の美しい友好切手の発行、日本庭園を含む日・ニカラグア公園建設(首都マナグア市)、26にも及ぶ文化行事、10月の常陸宮同妃両殿下のご訪問など、数多くの記念行事が盛大

に開催されました。

また、8月に東京

で開催された日本・

中米首脳会談では、

ニカラグアは中米統

合機構(SICA)の

議長国として参加。

続いて行なわれた愛

知万博の「中米の日」

では、ニカラグアの

マセワル民族舞踊団

の色鮮やかな踊りを

見られた方もいるか

もしれません。ある

いは、日本貿易振

興機構(JETRO)

後援の「FOODE

X JAPAN(国

際食品・飲料展)」などで、一般のコー

ヒーの市場価格の10倍で取り引きされ

るニカラグアのグルメコーヒーや米国

で最も人気のあるニカラグア産高級葉

巻(パドロン、ブラセンシアなど)、胡麻、

牛肉、ラム酒などに、すでに親しんで

おられる方もいるかもしれません。

日本とニカラグアは、実に70年にもわ

たる古い友好国なのです。私は、このニ

カラグアに2回勤務し(書記官として1

991~96年、参事官として2001~06

年)、最大のドナー国としての経済協力

の積極的実施(毎年20~30億円の無償資

金協力、中南米地域で最も多い64件「04

年実績」の草の根無償資金協力)、国連安

保理関連決議の共同提案国や国際捕鯨

委員会(IWC)での協力などの国際場

裡での緊密な協力、そして、幅広く深

い文化交流を懸命に行なってきました。

幸いに両国関係が最良のレベルにあ

ることを見とどけ、計10年近くにわた

るニカラグア勤務を終えて、今年2月、

在マイアミ日本国総領事館に首席領事

として転動しました。

ルベン・ダリオ勲章の叙勲

このニカラグアは、経済指標の上では、

中南米でハイチに次ぐ最貧国となってい

ますが、国土の豊かさ、労働力の質の高

さ、そして、特に文化的な豊かさには、目

を見張るものがあります。

実は、ニカラグアは、詩と詩人の国

なのです。週末の新聞には、必ず詩の

特集が絶えることなく掲載され、国際

詩フェスティバルが開催され、冠婚葬

祭や記念行事の演説には、必ず詩の朗

読や有名な詩の一節が引用されます。

日本の支援で建設された150以上の



2005年、日本とニカラグア共和国の外交関係樹立70周年を記念して、ニカラグア国内で発行された友好切手。4種類の図柄には、左から、ニカラグアの養護学校で日本のボランティアが生徒に絵を教えている場面、富士山とモモンボ山、草の根無償資金協力により建設された橋、桜とサクアンホチェ(ニカラグア国花)が描かれている

写真提供：筆者(左ページも)

小学校の引き渡し式では、必ず小学生が滔々^{たうたう}と長い詩を朗読するのです。革命時代（79～90年）には、詩人でないニカラグア人を探するのが難しいと言われたものです。

私が最初に赴任した91年、ニカラグア湖の船着き場で遊覧の小船に乗ろうとしていると、ボロをまとった小さな女の子がやってきました。当時、信号で止まるとお金をねだる子供達が多かったものですから、小銭をねだるのかと思っていると、その女の子が何と詩を朗々と誦んじるのです。私は、大変感銘を受けました。その裸足の女の子が妖精のようにも見えたものでした。その詩こそが、ニカラグアの国民的英雄の詩人ルベン・ダリオ（1868～1916年）の詩でした。

マルガリータ、海は美しく

風はレモンの花のかすかな香りを運ぶよ、

私は、心の中でひばりが鳴くのを感ずる。

お前のアクセントさ。

マルガリータ、お前にひとつお話しをしてあげよう

この様に始まる「マルガリータ・デル・バイレに捧ぐ」という詩は、ニカラグアの小学生から大人まで誰もが朗誦し、ス

ペインの小学校の教材にもなっています。

私は、この詩を含む『ニカラグアへの旅、インテルメッツ・トロピカル』を94年に、05年には代表作の『青…』を発表から117年目にして、それぞれ日本語に翻訳しました。序文は、詩作もたしなむカルデラ外相とアレリヤノ・ニカラグア言語アカデミー会長が書いてくれました。またこれらの翻訳により、私はニカラグア政府よりルベン・ダリオ勲章を叙勲し、ニカラグア言語アカデミーの海外会員に任命されました。

国民的詩人の生涯と業績

ルベン・ダリオは、イスパニア文学の巨星でモデルニスムの父です。19歳で出国し、22歳で発表した『青…』は、モデルニスムの代表作となります。作品は、リズム感のある多様な韻律、視聴覚に訴える光と色の反射効果、仏語なまりや新造語、礼拝用語や古語などの豊かな語彙により、彫刻、絵画、音楽世界が詩空間に表現される如きです。また、ギリシャ神話や中世の伝説、さらに日本や中国の東洋のモチーフを、時空間を越え、たくましい想像力とコスモポリタンな視点から大胆にモデルニスムに融合しているのです。

ダリオは、愛知万博の105年前、1900年のパリ万博にもアルゼンチンの「ラ・ナシオン」紙特派員として参加し、日本の風物を記事にしています。ラフカディオ・ハーンやユディス・ゴージェイ、ピエール・ロテイなどの作品を幅広く読み、パリで流行したジャポニズムを通じて、日本の文化、文学、国民性に深い理解を示し、古き良き伝統的日本人を忘れ、西洋軍事帝国主義の道に入っていく日本を嘆いています。日本文化に深い憧憬を抱き、いわばラテンアメリカにおける日本研究の草分けとも言える文学者でした。

ダリオは、スペイン文学の模倣から脱し、仏言語・文学への接近により自立した独創的イスパニア文学、近代文学を構築したのです。その偉業は、生年没年が同じ明治の文豪、夏目漱石に通じるところがあります。

現在の勤務地、ここマイアミは、50万人ともいわれるニカラグア・コミュニティがあり、ニカラグア第2の首都といわれるところです。ダイナミックな文化的多様性のある当地においても、日本との接点を持つダリオについての講演などを積極的にこなしていきたいと思えます。



わたなべ なおひと ●東京外国語大学外国語学部スペイン語科卒業後、外務省入省。スペイン、ベネズエラ、ニカラグア、ブラジル(リオ・デ・ジャネイロ広報文化センター所長)での海外勤務を経て、2006年2月より現職。ダリオ作品の翻訳のほかに、著書として文学小説『ロスト・ファミリー—失われた家族の肖像』『死デモ愛シテル』などがある

旧マナグア大聖堂。マナグア市中央の共和諸国広場の向かいにある。1972年の地震で崩壊した大聖堂が部分的に修復されている

